

平和体験研修

中学生の平和

体験作文



岡谷市では、8月4日から6日まで、『平和体験研修』として、市内4中学校3年生の代表20名を広島市へ派遣し、平和記念資料館の見学、被爆体験者の講和聴講、平和記念式典への参列などを行いました。

新しい時代に生きる生徒たちが、人間がつくり出した最大の悲劇である核戦争の悲惨さを知り、社会や家庭、学校・学級生活における身近な問題の解決に努めながら、人の命の尊さや人権の尊重と真の民主主義や平和の在り方を考え、21世紀を「平和の世紀」にする努力を続ける契機にしてほしいとの願いから実施しています。

ここに、生徒の体験作文を掲載しますのでお読みいただき、家庭などでの話し合いの参考にさせていただきたいと思えます。

原爆を忘れないために



岡谷南部中学校
さとう 藤 なつみ

8月4日から6日にかけて、私は平和体験研修で広島に行きました。研修の目的は「生命の尊さを感得し、核兵器の廃絶と恒久平和を念願する」ことでした。改めてこの目的を見てみると、とても難しい事のように見えますが、研修で目的を達成することが出来たのでは…と思います。

研修の中で特に印象に残っているのは、2日目の平和記念資料館の見学と、被爆者の岩本さんの講話です。資料館の展示の中でも、

原爆被爆者の状況を示す人形は、人形だと分かっているのに、本当に自分が当時の広島に立っているような気がしました。

原爆の恐ろしさがより分かったのは、岩本さんの講話でした。59年前の事を今あった事のように、おっしゃっていました。講話の中で一番印象に残ったのは、これからの私たちが出来る事として、過去の事にも目を向け、正しい判断をする事が大切だという事です。

私はこの研修に参加するまで、原爆や戦争はずっと昔にあった、自分にはあまり関係ない事のように思っていました。しかし、このお話を聞いたら、自分に関係ない事ではない、原爆や戦争の事は次の世代に伝えていかないと、やがて忘れ去られてしまうのではと思えました。また、いつも思いやりを持って、優しい気持ちでいる事も大切とおっしゃっていました。直接、平和や核廃絶にはつながらないかもしれないけど、大事な事なんだと改めて考えました。

本当に色々な事があった研修でしたが、もう一度戦争の無意味さや人が死ぬという事を真剣に受け止めなければいけない事など、多くの事を考えさせられました。これから、まずは自分の仲間たちに広島で見聞きしてきた事を伝え、みんなが幸せに生活できるように

思いやりの気持ちを持つ事も忘れないようにしていきたいです。

原爆の悲惨さ



岡谷東部中学校
もも せ 瀬 ゆり え 由 璃 絵

私は8月4・5・6日の3日間広島に行って、平和記念資料館が一番心に残っています。

資料館に入り、私は広島歴史を見ました。そのあとすぐ目に入ったものは、中学生・女学生の遺品でした。私はなぜか思わず泣いてしまいました。遺品からは、被爆者の苦しみや、残された家族の悲しみが伝わってきたような気がしました。

人形で再現された「生死の境をさまよう」がありました。それは人形で現されたとはいえ、とても悲惨な物で、見ているのも恐ろしく感じました。今、考えてみても恐ろしく感じ、当時は人形ではなく、人間だったという事が考えられませんが。

平和記念資料館では、当時の状況が生々しく、リアルに伝わってきました。それと同時にたくさん

の人々の平和への願いも伝わりました。

その後聞いた被爆者の岩本さんのお話もまた生々しく、その日の事がわかりました。岩本さんは「戦争に勝者も敗者もない。あるのは被害者だけ」とおっしゃっていました。

私も戦争には人を幸せにする事は何もないと思いました。それに岩本さんは、勝者に対する怒りや悔しさではなく、もう二度と戦争が起らないことを願っていました。

私は平和体験研修を通して、原爆の悲惨さが改めてわかりました。そして、多くの人々が望んでいる「二度と過ちを繰り返さない」ために、クラスや学校の人に伝えるようにしたいと思いました。

広島の惨劇と

私たちの将来



岡谷西部中学校
た 角 雄 太
も る ず み ゆ う

僕は、8月4・5・6日と岡谷の中学校の代表として、平和体験研修で広島へ行きました。僕がこの

平和体験研修に参加した理由は、世界の中で唯一、原子爆弾を受けた広島はどういう所なのか、原子爆弾とはどんな兵器なのか、どのような被害をもたらすのか、広島の人々の平和への思いはどんなものなのかを知りたかったからです。

平和体験研修の中で一番印象に残っているのは広島平和記念資料館で、その中の展示物『8時15分で止まった時計』と『原子爆弾で亡くなった被爆者の遺品』です。

あの時計を見たとき、僕はとても信じられませんでした。普通の爆弾ではこんな事にはならないからです。そして遺品が物語っている原子爆弾の恐ろしさ。どの遺品にも一つひとつ思いが込められていて、その思いが僕に当時の惨劇を訴えてきました。平和記念資料館は、まさに平和という願いそのものだと、僕はその時心の中で感じました。

この平和体験研修の中で、僕は様々な人の原爆への怒りや悲しみ、平和への強い思いに触れたり、からだ全体で感じたりしました。そして、その様々な思いを受け止め考えました。原爆は、何も自分たちに与えてくれない、ただ生まれるのは強い憎悪感と絶望感、そして多くの人々の死のみだと思えます。これは戦争にも言えることです。

平和を考えることは、自分たちの将来を考える事だと思えます。

今、イラク戦争や内戦が絶えずこの地球上で続いています。僕は、軍事国アメリカや、原爆を大量に所持・開発している国々、内戦をしている人々に言いたい。

「武器を捨ててください！もう争う時代は終わったのです！みんなで一緒に相手のことを考えてください。そしてわかちあいましう」と。

平和体験研修を通して



岡谷北部中学校
いま 井 雄 介
い ま ゆ う

僕は、この平和体験研修にあり、事前に原爆についての写真を見たりの原爆ドームや様々な遺品は写真で見ると生々しく、原爆の悲惨さがよくわかりました。まず、原爆ドームについてですが、写真で見ると小さな原爆ドームと、実際に見たものでは、やはり全然印象が違いました。間近で見た原爆ドームは、鉄骨だけの屋根や、ボロボロになったレンガなど

から、原爆のすさまじい勢いや怖さがわかりました。

次に、平和記念資料館で見た遺品や資料についてですが、熱線の被害にあった指先や、放射線の影響で変形してしまった爪などを見て、あまりの生々しさに、本当に言葉がでませんでした。他にも様々な原爆の資料があったのですが、一番印象が強かったのが、ケロイドで顔がめちゃくちゃになってしまった人の写真でした。すごく残酷で、これは人間が人間に対してするべき事ではないとつくづく思いました。

そして資料館では、被爆された方のお話も聞くことができました。実際の出来事を分かりやすく丁寧に話していただいて、とても重みのあるお話でした。その中で一番印象に残ったのが、「戦争には勝者も敗者も無く、あるのは犠牲者のみ」という言葉でした。本当にその通りだと思いました。

最後に、平和祈念式典では、ものすごい暑さの中、年輩いた遺族から自分たちと同じ若い人たち、そして外国人まで式典に参列している事は、とても素晴らしいと思えました。その祈りの通り、戦争が無い平和な世界になってほしいと思えました。